連載 レッスンのお悩み、一緒に考えます！

聞いて！まるみえ先生

ぽこあぽこピアノ教室主宰 中西美江

今回のお悩みは…

進みが遅い生徒さん

お悩み内容

集中力が続かず、こちらの言うことをなかなか聞いてくれない生徒さんがいます。その結果、毎回同じところでつまずき、テキストも進まず悩んでいます。（H. T先生）

生徒さんの年齢がわからないので「これだ！」という正解は出ませんが、子どもさんは往々にして「自分が理解できないこと」に対して「拒否する」行動を取ることが多いように見受けられます。何が「わからない」のかがわからないから集中力が続かない。「説明する」ことができないから言うことをきかなくなる。

では、どんな課題が生徒さんにとって難しく感じるのでしょうか？　そして、どこまで理解しているのでしょうか？　そこを探れば、レッスン改善ポイントが見えてくるように思います。

今回の場合、はっきりわかっていることがあります。それは、「毎回同じところでつまずく」ということです。では、その「毎回、同じところ」とはどんなところでしょう？

毎回同じところでつまずくのは生徒さんにとってもストレスです。「毎回、同じところ」を「スモール・ステップ」にして、少しずつ前に進めていかれてはいかがでしょうか？

［課題例］

- **８小節の曲、左右ともCポジション**
- **左手は全音符だが、小節ごとに音が違う**
- **右手のメロディは順次進行ではなく、３度、４度などの跳躍があり、事前準備が必要**

時として、このような地味に難しい課題が出る時ありますよね。たくさんの複合課題の場合、情報処理能力がいつもより多く必要です。

もちろん課題をスムーズにこなせる生徒さんもいるでしょう。でも、全員がその課題をこなせないとダメでしょうか？

私自身は「課題をこなせない生徒さん」がいても問題ないと思っています。その場合、生徒さん一人ひとりのゴールを決めて、そのゴールに向けてチャレンジしていただきます。

◆４小節ならできるけど、８小節になると難しく感じる生徒さん

➡５小節目から８小節目だけ練習（曲の長さを調節）
➡４小節の曲に作り変えて、繰り返し記号を用いる（視覚を調節）

◆左手の動きについていけない生徒さん

（まず、右手が難しいから動けないのか、音符を読めてないから動けないのかを見極め、どちらかの手を優先させるかは生徒さんによって判断する）

➡左手の動きを簡素化し、絶対読める音符で弾くようにする
➡その際、左手に新たにリズムを誕生させるなど、できる課題を増やす

◆右手の跳躍についていけない生徒さん

➡３度跳躍だけ、４度跳躍だけにまとめるなど、課題を簡素化する
➡休符等を入れて、次に備えるタイミングをつくる

講師にとって大事なことは、「テキスト」を進めることではなく、生徒さん一人ひとりが「必ずできるようになること」ではないでしょうか？

私自身、私の教室の生徒さん一人ひとりにぴったり合うテキストはこの世には存在しないと思っています。その上で、内容に共感できて「一人ひとりに合わせる工夫」ができるテキストを選んでレッスンをしています。

だって、私には私だけしか経験していない音楽体験があり、レッスンへの想いがあるのです。それはピアノレッスンをされている先生全員がそうであると思います。

これからのテキスト選びは、「私の想い」を体現し、伝えやすいテキストはどれか？という視点で選ぶことも大事だと思います。

生徒さんが「できること」は、必ずできるようにする。たとえそれが小さいことでも、先生の「できた」という評価ではなく、生徒さん自身が「できた」を実感できた時、レッスンは次の段階へ進むと思います。

「聞いて！まるみえ先生」の過去記事がお読みいただけます。下記URLから、もしくは「楽譜ナビPLUS　まるみえ先生」でご検索ください。
https://plus.musenet.co.jp/2024/05/lpo-marumie-sensei/